

## 夏期講習



去る、8月26日、27日「テーマ共創」とし、夏期講習を開催いたしました。

本年は我々、地域の魅力創造委員会が担当させて頂き、我々の委員会の趣旨にもあります、地域の魅力創造ということで、尾道の代表的文化でもある『映画』への再認識とともに、『映画のまち、おのち』の魅力を生ヨートムービーというツール



を用い、我々が身をもって体験し感じることで、尾道の新たな魅力や改めて感じる魅力を発見し、より深く知って頂くことを目的と致しました。

メンバーの皆様には映画の街、尾道を舞台に、テーマを「こころ」と題しまして尾道のPRショートムービーを制作していただき、翌日に上映、検証を行いました。ベストムービー賞（理事長賞）は選定投票の結果、正副事務局



が受賞されました。おめでとうございます。  
ムービー制作につきましては、委員会ごとに撮影をしていただきましたが、類似した作品はひとつもなく、それぞれの個性溢れる素晴らしい作品が出来上がりました。また、今回の撮影を通じて普段とは違う視点で尾道の街や風景を見ることができ、尾道の魅力を再発見、再認識できたのではないのでしょうか。

仲間と共に一つの作品を創り上げる。それを完成させるまでのプロセスでは、それぞれが意見を出し合い、一つにまとめる作業が不可欠です。共に創り上げることの面白さ、また難しさを感じ、その先にある達成感や団結力が得られた、そのような夏期講習であったと感じております。この夏期講習で得られた経験が、皆様の今後の活動の一助となれば幸いです。  
(記事：地域の魅力創造委員会夏期講習推進リーダー 沼田剛志)



沼田剛志



## おのち 親子心算士

青少年育成事業にて例年とは少し趣向を変え、尾道ふれあいの里での宿泊事業をさせて頂きました。

寺子屋として尾道の小学生の子を持つ親御さんの間では評判も定着し、人気のある事業を継承するという事で肩にのしかかる重みは口では言い表せない大変なものでした。保護者の皆さんはもちろん、周囲の方からの熱中症対策への心配の声が後を絶たず、実際に自分たちも「本当にこれで万全に準備できているか」という点への不安が消えることはありませんでした。



そんな中当日を迎えると、子どもたちの真剣に授業を聞く姿勢、一生懸命にメニューを考える姿、暑さに負けず食材を買うためにスーパーへ向かう姿、気に入ってもらえる箸を作る為頑張る姿など、子どもたちがとにかく一生懸命に取り組む純粋な心にくくも出会いました。



最後のアンケートでは、手伝いを積極的にしてくれるようになって、低学年なのでよく分かっているかもしれないが「ありがとう」の言葉が増えた、当たり前のことではないと気付く機会になって良かったなど参加できて良かったという言葉を多数頂きました。参加して下さった皆様が多少なりとも学ぶことができたと感じて頂けたことが協力してくれたメンバーを始め、自分自身にとつて最大の勲章となりました。

色々心配もある中、自分たちを信じて大切なお子さんを預けて下さったご家族の皆様、協力下さった土井木工さん、シグマサイエティの皆さんに感謝するとともに大きな事故もなく無事に終えることができたことを有り難く思います。

(記事：地域特性を活かしたまちづくり委員会 歌一行)



# 60周年記念 特別インタビュー



第60代理事長  
麻生 裕雄 君

——JC活動に向かい合われたご自身の経験を、先輩の教えとして現役メンバーに伝えて頂きたいと存じます。

——Q JC活動で得たものとは？

仲間であり、友人ですね。当然尾道で育ちましたが、中学・高校は福山の学校に行きました。大学も京都の学校に行きまして、お坊さんの修行をして帰ってきたので、地元の方は少ないというわけではないですが、連絡をすぐに取り合える友達は福山に多く、福山にわざわざ行つて交流しているような20代でした。その後JCに入り、多くの尊敬できる先輩方や後輩と出会い、異業種の方々と交流ができたことはありがたかったですね。色々な職業の方々があり、色々な考え方を持っておられるので、そういったものを知ることも良い経験でした。それがJCに入つて得たものですね。青年会議所は単年度制です。経験を重ねていけば色々なことができます。その立場

ごとに自分の課せられた役職をこなしていかなければなりません。「成功している」「成功していない」は他人が評価するものですが、すばらしい人材が集まっている会だと感じています。

——Q 後輩に伝えたいことは？

ピートルズのジョン・レノンの言葉に『人の言うことは気にするな、好きなことをすれば』こうすれば、ああ言われるだろう、こんなくだらしない感情のために、どれだけの人がやりたいことも出来ずに、死んでいくのだろう』とあります。

仏教を開かれたブツダの言葉にも『沈黙している者を非難され、多くを語るものも非難され、すこし語るものも非難される。世に非難されないものはない』とあります。

人のすることには非難が付きものです。悪行でない限り、自分が信じたことをやるべきだと私はそう思います。非難を気にしていると何も出来ずに人生が終わってしまいます。青年会議所活動に置き換えると40歳という限られた時間の中で、自分自身の考えを広く多くの方へ伝え、悔いのない大切な時間を仲間と共に過ごすことが必要不可欠だと考えます。そのためにも信念を貫き通すにはいつも自分自身の心を冷静に保つことが大切だと思います。

僕の青年会議所の転換期はブロックの運営専務の時でした。それまでも理事や委員長など、青年会議所活動を一生懸命やっていました。手塚先輩から『一緒に広島に出てくれないか。』とお声掛けを頂き、それを受けたこと。それまで以上に幅広くJC活動に

取り組むことができました。それがあり、私の理事長という立場があったのかなと感じています。尾道JCはすごく居心地が良いですし、『ブロックは遠い』『時間がない』『お金がない』という理由もあるかもしれませんが、ブロックにできる事も良い経験だということも伝えていきたいですね。

——60周年を迎え、これからの尾道青年会議所に期待すること。

尾道JCは皆仲が良いので、今後もメンバーを大切にしていって仲良く頑張ってもらいたい。けつして派閥をつくることなく(笑)

拡大活動ですが、今後メンバーが減少していく可能性もあるのかな、という思いもあります。年齢も40歳までと限られていますので、メンバーの数も限られます。その中で背伸びをせず、状況を考えながら、すばらしい事業の構築をして頂くことが一番ですね。

60周年を迎えたからどうか、というよりも尾道自体も来年は市政

120周年を迎えます。2020年の東京オリンピックを含め、行政としても動いていると思います。そういったことにもアンテナを張って頂いて、青年会議所として市民行政とどういったリンクの仕方があるか、早い段階で見つけ、枠に囚われず可能性をどんどん広げていって欲しいですね。

## 主な事業



出張! ゴルゴ塾 命の授業in尾道



尾道をぶちすぎになろう



みなと祭り

(BAL TATTE 2nd・ディズニーパレード)

- 平成27年 卒業生 (10名) 敬称略
- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 青山 暢克 | 今中 雅浩 | 片岡 彰一郎 |
| 河本 清順 | 辻 健志  | 沼田 邦博  |
| 本多 隆士 | 村上 成司 | 村上 忠正  |
| 山本 邦人 |       |        |
- 平成27年 入会者 (10名)
- |       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 池田 知和 | 内海 洋平 | 大前 慶倫  |
| 小川 直紀 | 草開 大輔 | 小林 暢玄  |
| 三浦 雄輔 | 溝口 佳矢 | 横山 大二郎 |
| 吉田 嵩正 |       |        |

## 60周年ミニ知識

昭和32年に尾道青年会議所が設立されたときの船上パーティに供された「千光寺の桜」というオリジナルのカクテルを現在も飲むことが出来るお店があります。

10年ほど前に尾道の皆さんから惜しまれながらも福山へ移転された、「舶来居酒屋 暁」さんです。60年前、現在のマスターは中学生でしたが、先代がレシビを伝え、今に残しているとのこと。ウオッカベースで酸味の利いたカクテルです。福山方面に行かれることがあれば、60年前の先輩方が味わった味を試してみませんか？

(記事: 政成啓行)



舶来居酒屋 暁

福山市入船町2-5-15  
TEL 084-923-2104



# 8月 定時総会

去る8月27日(日)、千光寺山荘にて8月例会定時総会が開催されました。

総会では第一号議案において麻生直前理事長より2018年度理事長予定者に安本皇君が推挙され、全員の賛成をもって承認可決されました。次に第2号議案においては

## 2018年度理事 (23名)

 加藤 雄大君 (新任)	 加度 亮平君 (重任)	 岡本 正也君 (新任)	 歌 一行君 (新任)	 井上 智仁君 (新任)	 石森 良君 (新任)	 安本 皇君 (理事長)		
 鍋島 巧君 (新任)	 中島裕一朗君 (新任)	 武田 大俊君 (重任)	 高升 純君 (新任)	 新宅 正章君 (新任)	 島田 元太君 (新任)	 河原 研介君 (新任)		
 吉原 敏兼君 (重任)	 吉田 雄太君 (新任)	 山北 真也君 (重任)	 森川 陵君 (重任)	 宮地晃二郎君 (重任)	 政成 啓行君 (重任)	 巻幡 恭史君 (新任)		
2018年度監事 (2名)			美ノ上 仁孝君				安楽城 大作君	
								

監事数及び理事数が上程され、監事2名、理事長予定者含む理事23名が全員の賛成により承認可決されました。第3号議案として2018年度監事予定者に美ノ上 仁孝君と安楽城 大作君が推薦され、全員の賛成をもって承認可決されました。続いて理事選挙が行われ厳正なる開票の結果無事理事予定者を選出されました。次年度監事・理事の皆様、本当におめでとうございます。

(記事：政成啓行)

## ブロック大会 in 福山

9月2日、第47回広島ブロック大会が福山の地で開催されました。

尾道青年会議所からも大勢のメンバーと卒業予定者が参加しました。

午前中から県内各地の名産を集めたたからいちに始まり、厳粛な式典や大懇親会での卒業行事、福山城前でのDJナイトの設えなど、県内12L.O.Mのパワーを感じるファンクションが目白押しでした。

来年は三原の地で行われるそうです。来年も大勢のメンバーで楽しめるといいたすね。

(記事：政成啓行)



## 尾道市 中学校 リーダー研修会

8月7日、尾道市教育委員会が主催する、中学生リーダー研修にメンバー有志でアドバイザー役として参加してまいりました。

山北専務理事による尾道青年会議所のこと、これまでの事業の紹介を通じて、地域に対してJCが何をしているかの説明を行いました。その後、市内各地の中学生で4人程度の班を構成し、「地域貢献」について各校が今やっていることのプレゼンとこれからの地域貢献について我々JCメンバーも交えて意見交換をしました。

最後に安本副理事長が総評を行い、中学生にエールを送りました。

(記事：政成啓行)





# 卒業生スピーチ



失礼します。吉原です。もう卒業生スピーチかという感じがして、しばらくお付き合い下さい。まず始めにこの場をお借り致しまして、これまで出会った全ての皆様、お世話になりました。本当に今振り返ると、お世話になりました。本当に心から感謝したいと思えます。特にこんな私を、仲間と呼んでくれる方に出会えたことは本当に嬉しく、ありがたいことだと思っております。そして、私は森川君をはじめとする委員会のメンバーに、卒業生ということで本当に手厚くしていただけて、感謝感謝でございます。

皆さん入会のお話をされたので、ちょっと入会のお話をしたいなと思えます。僕が入会したのは、26歳になる年に朝日屋の鍛冶川さんと同業者のタカオフラーフレイクの髙尾さん、あと理事長予定者の専務さんが一緒に会社に来られて、「入会しないか？」というかたちで言われたんですけど、その時は「まだ若いので、もう少しと待たせて下さい」という話をしたんです。その後、近所にJ.CのO.Bで中川潤さんという方がいて、この人に相談したのが間違いでした。「そりゃ断つたら、おたくの朝日屋さんの仕事は髙尾さんに渡すことじゃ。あんた断つたらえらい目にあうぞ」というの騙されまして、朝日屋さんに急いで行って、「入会させて下さい」というのがきっかけでした。中川さんには後々「お前こんなん騙されようじゃ、J.Cじゃうまいことやつていけんと」と言われたのをよく覚えております。

卒業生スピーチというのは、実際の卒業は12月なんですけど、「メンバーとしての卒業はこの卒業生スピーチだ」と思っています。どういう話をするかというのを何年も前から考えていたんですけども、実際に話すことは3日前くらいから考えて、一応原稿を書いてきたんですけど、原稿通り話したくないなと思っています。30歳の時にセクレタリーをやるとは思いませんが、私が役職についた年は、本当にポロポロのダメダメで、こんな私が皆さんに何か活かせられる話ができるかどうか、本当にわからないんですけど、しばらくの間お付き合い下さい。

卒業生スピーチで、皆さんに「どんなことを聞きたいですか？」とアンケートを取ったので、だいたい8割の方が「昔のJ.Cの話が聞きたい」ということだったので、ちょっとだけ触れたいと思えます。僕が入会したのは、まだパソコンが一般的じゃなくて、僕が入会してパソコンを習ったという感じでした。当時の最先端が携帯のメールで、委員会の開催とか連絡をしてたんですけど、今はラインとかあって、斉送信で、誰から返信がなくて、誰か返信がなくて、すごくコミュニケーションが取りやすくなりました。当時では、返信がこない場合は電話連絡とかしなきゃいけないって、委員会の開催とかも、それだいたい返信くれない人は電話も出てくれないんですよ。そういう状況

を当時の委員長に説明すると、「そんなもん会社にFAX送っちゃええんよ」というような時代だったんですよ。そんな時代が、すね、今の方が明らかにいいからって、概してそうではなくて、お会いした時にはしっかりと次の予定を伝えるとか、もしどうしても連絡取りたい場合は会社まで行って伺いするとか、そういうことをした部分は、フェイスブックやフェイスの付き合いを今よりははしたかたという印象はあります。昔は今と比べて委員長はすごく偉かったんですよ。言い方もそうです。自分がこうやりたい、っていうのが強くて、「いいついでに何をやってこい」とか、なんで出て来ないんだ」とか、すごい怒られて、今はものすごくなんだかメンバーに気がつかなくて、連絡調整とかも委員長がやっていたんで、幹事に振ったりとか副委員長がサポートしてあげればいのに、なってるって思ってます。僕ははいはい怒られたんですけど、怒られた代表がONOFFの話じゃない怒れませんが、「所懸命事業した後は二所懸命飲みましょ」と飲むのはええけど、次の日しっかりと「命」というようなことを言われて、例会中に「飯を早く食べ終わって、喫煙所に出ようたら」例会の間も我慢できんようなやつがはずかしいことするな。お前は看板背負ってJ.Cに入ってるんじゃないか」と怒られました。そんな時代で、特に夏期講習とか居酒屋の青春で、若いと特に飲みたてで、二口口酔わされて、次の日6時くらいからラジオ体操とかあるんですけど、ラジオ体操に遅れてプチ怒られて、小学生以来ラジオ体操で怒られるという経験をさせていただきました。

セクレタリー以降、セクレタリー以前もそうなんですけど、J.Cを経験してこの団体はどういう団体なのか考えた時に、最終的には目標をもってゴールを設定して、その過程において出てきた課題を一つクリアしていき、それでゴールしたら目標が達成できたかどうか検証して、次にどうやっていこうか、どの委員会もその繰り返しなのかなと思っています。ゴールを設定するっていうことでは、自分が「J.Cは40歳で卒業です。40歳で卒業するっていうゴールが決まっているんだから、自分の中で何か目標をもって、40歳になったらこうなる」とか、「こういふ人になろう」とか、いふのを目標に設定し、ちょっともったいないかなと思いましたが、私が28歳の時に設定した目標が「40歳までにはりっぱな大人になる」というのを設定しました。また全然道半ばですけど、「りっぱな大人」とって何なんだろう？とて考えて、社会的にも仕事的にも金銭的にも家庭的にもしっかりとしたいかなと思えました。ありがたいことに結婚も出来ましたし、子どもも出来ましたし、仕事的にも今のところ順調にいきますし、社会的にはいいかなと思ってます。色んなことをしっかりとしなきゃいけないな、という目標を立ててみて、やってみてはいるんですけども、今のこの場で振り返って、自分のことを考えたら、まだまだイケてないな俺って思うし、40歳にして迷っている自分がはずかしいな、って思っている次第でございます。

皆さんにお伝えしたいことは色々あって、これだけは伝えたいというのを色々選択してみたんですが、やっぱり祭りについて思うところがありました。J.Cといえは三休祭ですが、今年タイドードリゴの「日本の祭り」に取り上げられて、取材があったので、テレビ放送をみると、戦後途切れた祭があつて、それを青年会議所が復活させて、現在に至るという過去、現在の映像でした。祭りの運営を移行して数年経つんですが、この祭りはJ.Cとは切っても切れない関係なんじゃないかなと思ってます。というのが運営を渡してきて、どうなつたかっていうと、本番はまあ三休祭しそのままだんですけど、前の週に担当を集めて、お宮から商店街の広場まで行く。二週拘束されるんですよ。それで本番はいいんですけど、前の週やってくる、運営とか見ていると、どくどく言ってきたらあれですけど、ちょっと物を言いたくなるような雰囲気でも、せつなく連絡調整の機会がある祭りで、J.Cのノウハウでも、うまいこと進めていくのが、コミュニケーションを取って改善して、いってこいたらいじゃないかなと思ってます。祭りのいいところは、自分が言いたか忘れたんですけど、「祭を見れば、町の民度がわかる」と言った方がおられて、なるほどなと思えました。祭りのいいところは、運営とか担当とかプレイヤーの部分と精神的な金銭的に支えてくれるサポーターの部分と、観客（オーディエンス）と三つの要素が必要で、発展させていこうとする、協力してくれる人がどれだけ多いかっていうので、良い祭になるか、その小さい祭になるかっていうような差が出てくるんじゃないかなと思つて、地域とか色々なところの協力無しには成し得ないのが祭ですね。その祭がうまくいって継続されていくと、町のアイデンティティになって、地域のコミュニティが結束したり、子どもも育成しやすくなったり、色々なことに派生していくんだと思つています。今三休祭の運営からJ.Cが手をひいたっていうのもあるんですけど、他でもいいの何か主体的にこの組織が社会開発とか文化継承に携わっていければ、うまいこといんじゃないかなと思つています。

青年会議所というのは町づくりの団体です。少し前まではビジネス系の委員会とかが、提言書を市に出すとか、「自分らの考える理想の町づくりだよね」とか、色んな手法で町について考えて、町って何なんだろう？とて思つています。個人的な意見ですけど、「町って何なんだろう？」とか、「町づくりって何なんだろう？」とか、今一度考える時期があつてもいいんじゃないかなと思つています。例えば、我々の世代が、J.Cじゃなくてもいいんですけど、何かしら担う役割とか、その土地のニーズとか色々上げて、何かしらの行動が出来れば、地域は結構高齢化していきながら、ありがたがられるとか、地域は望んでいるじゃないかなと思つています。私がJ.Cで、番いなど思っているのは、全国大会とかで色んな機会です。その町へ行くことがあるんですけど、そういふところで、その土地の商店街を見たり、その土地が感じられる場所に行つてみたいですね。商店街を見るというのはその地域の活性化区内、特に生鮮食品とか、このへんの住民はこういった物を買っているんだとか、活気ある町なんだとか判断がつかないです。それを感じて尾道に戻るとどうフイードバックできるかな、よその地域について感じることができるといふ目で見ています。なぜかという尾道の商店街で結構高齢化してきて、数値的にみると連環界集落らしいのパーセンテージになってきているんです。後10年すれば、今よりもっと廃業とか空き店舗とか増えてくるだろうなと思つていて、「なんとかしやいけん」と、何が出来るかっていう機会をJ.Cで与えていただけたのはありがたいなと思つています。

高齢化とか少子高齢化とかJ.Cにも当てる問題は、これからいよいよ卒業生が出て行くと思うんですけど、会員が減ると何が一番問題かという、会費が少なくなり、J.Cは皆さんからお預りした会費を、どう町づくりにつなげていくかっていうことをやっているんですけど、会員が少なくなると使えるお金が少なくなるので、極端に会員が減ると、事務諸費の問題とか、事務局さんの問題とか、コンスタントにかかるコスト的な問題も出てきます。だから拡大活動を頑張りたいなと思つています。お金の使方、どこが厳しくなるとか、厳しいなかなって思つていて、厳しいからやらない方がいい話かなって思つていて、理事さんから預かったお金をどう使うか、というのを決める会だと思つています。支払いとか色々システムがあるんですけど、それをみんなで周知してどうやっていくか、かみんたいな全員を対象とした理事研修みたいな研修があつてもいいんじゃないかなって思つています。

尾道青年会議所は意識が高いと思うので、ぜひとも今のレベル、勢いをそのままに何年も何年も続けていってほしいなと思つています。皆さんがいる間、今の状況についていふのは今でいいと思うんですけど、これから先を考えたときは僕らじゃなく皆さんだと思つて、何かしら改善しようか、やっていたきたい。それでこのJ.Cがいままで学びの場として、また交流の場として続いていて頂きたいなと思つています。最後になりますけども、15年に渡って在籍させて頂いたこの団体に本当に感謝しています。やりきつたって感じはないんですけど、くすぶつた、くさつた時期があつたので、もったいなかったなと感じています。青年会議所活動を頑張つてもらいたいなと思つています。

「清聴ありがとうございます。」

皆さんこんばんは。森石です。私が入会して、今見ると9年経つのですが、もう半数以上の方が若い方で私も年を取つたなとつくづく思うようになりました。本日は私が青年会議所に入つて9年、色々経験したことや思い出をお話できればと思います。私の入会の経緯ですが、大学を卒業して地元の信用金庫に6年ほど勤めておりました。実家が家業として祖父の代から保険の代理店をやっておられて、その跡を継ぐという形になりました。その事務所、どこから情報を聞いたのかわかりませんが、同級生の吉原くんとか大村くんが訪ねてくれておりました。当時、小島先輩とうちの親が懇意にさせていたみたいで、それが私が入会して入会した経緯です。



皆さんも経験されたと思いますが、仮入会委員ガイダンスで訳のわからないことを色々と言われて、変な団体だなと思いがちです。緊張していたのを覚えています。その時に貰った予定表を見ると、事業の数が多くて、仕事柄自分で動かないといけないことが多いので、参加するのは無理だろなと思いがちです。当時の室合同委員会が仮入会になった時点で配属先の委員会が決まっていたので、入会を辞める

とは言いにくい雰囲気だった所で、当時同期入会だった高橋大介さんが「森石君緒に入ろう」と言っただけで、何をそんなに言ってくるのかなと思っていたら、大介さんはパソコンが全く使えないことが後にわかりました。だからなんとしても入会させようとしていたみたいですよ。そんな経緯で正式に入会をさせていたんで、初めての委員会が次代の誇り育成委員会という教育系の委員会に配属していただきました。当時、副理事長が副委員長でした。委員長としては、村上君以外は皆先輩が副委員長でした。委員長としては、村上君以外の印象で、私もこの人の為だったら頑張ろうと思いついて、スケジュールを調整して委員会や事業にも全て参加したというのが私のJ.C.の始まりだと思えます。その委員会では親子キャンプや公開例会がありまして、本当に委員会メンバーで協力し合っていて、終わつたときに太田委員長が達成感を感じられていたのが、今でも凄く覚えています。この委員会での何かの打ち上げだっただけですが、当時西本先輩がいらつしやいまして、岸上先輩の頭にキスをしろと言われて酔った勢いで頭にキスをしてみました。それから私のキョウキョウが定着してしまつたような気がします。この場をお借りしまして、この場いらつしやる私がキスをしてしまつた皆様にお詫言ひ申し上げます。

2013年にセクレタリーになった時は、夏期講習が終わつてすぐ、当時の村上伸一理事長からセクレタリーをやつてもらえないかとお話をいただきました。私も当時ではできないと思つたのでお断りしていただきました。お断りしてしまつた後、引受けを受けることになりました。美ノ上君と石森君と二緒に愚痴を言いがらやつていたので凄く懐かしかったです。当時の村上伸一理事長からセクレタリーをやらせてもらつたので、打ち合わせをしつたというところが、あつた。本当に大丈夫かと思つていましたが、当時の太田専務、河合事務局長、辻財政局長のお陰で色々仕事をこなすことができました。無事1年間乗り切ることができました。

その次の年に委員長をさせていただくことになったのですが、本当に今思えば色々なことがあつたと思つています。委員長をやられたことのある皆様であればわかると思つていますが、先日理事選があり、当選された方は次年度の事を考えて、先日理事選が、本当にすぐに日は経ちます。私もまだ年も明けてないからと、本心に考えてはいましたが、中々自分のやりたことが見つからず過していったら年が明けてしまつて、そこから非常にプレッシャーをかけられながらやつたのを覚えてます。最初の事業が4月例会で、当時尾道松江線が翌年開通することだったので、尾道松江線についての例会をさせていただきました。その後にはゆかた会を開催し、秋に集大成の事業として、子どもを中心とした事業を開催したので、その矢先に妻が病気をしまして、皆様と連絡が取りづらな状況になり、太田副理事長や本多副委員長には今でも頭が下がっていると思います。その時には妻が入院したことで、子どもの送り迎えや子どもにご飯を作ったり、洗濯をしつたりして、妻のありがたみが本心に分かれました。普通にJ.C.や仕事が出来ているのも家族のお陰だなんだと思つておりました。妻の病状が良くなればJ.C.を退会しようと思つておりましたが、運よく体調が戻りまして、仕事やJ.C.がいつもどおりでき

るようになりまして、本当に良かったと思つています。皆様も色々あるかとは思いますが、家庭や奥さんを本当に大事にしたいだけだと思つています。この時のメンバーにお礼を申し上げたいのですが、濱野さん、出張で中々いない中で、事業の前には協力していただきまして、ありがとうございました。それから三谷君、三谷君がいなければ、事業も出来ていなかったと思つています。本当にご負担をお掛けしましたが、ありがとうございました。予定者の吉原寿希さん、私が色々と言つたときに、岡本正也くん、来年は理事をされるということで、期待をしていますので、頑張つていただければと思つています。それから中浜先輩、浜本先輩、村上伸一先輩からもアドバイスをたくさんいただきました。今日はいらつしやらないですが、土屋君もほとんど出てこられませんが、事業の前には色々協力していただきました。最後に森川陵くんですね。森川君には2年連続で幹事をやることになりましたが、鍵を取りに行つてもらつたり、幹事の仕事を全うしていただき、ありがとうございます。私は委員長をした時は反省しませんが、皆様のおかげで委員長をしないといけない経験をさせていただきました。ありがとうございます。

平成28年度からは子どものソフトボールの関係で出ることができずに、迷惑をおかけしてあります。委員長の時にこの迷惑をかけた分、恩返しをしたかたですが、それが叶つて申し訳ない気持ちです。最後に野球部で私が6年くらい監督をさせていたのですが、中司くんにはこれから大変だと思つていますが、頑張つていただければと思つています。

時間になりましたが、9年間のJ.C.生活を振り返つてみると、生活の中でプラスになることが多かつたように思つています。やはりやるだけ自分に返つてくるのがあつた、身につくものが多かつたという限られた時間でありまして、自分ができることをしっかりとやつていただければと思つています。9年間ありがとうございました。



皆さんこんにちは。まずはこのような場を設けて下さりまして、本当に有難うございます。僕は普段、介護の仕事をしていて、人の前で話をする機会が多々ありますが、8割9割がおじいちゃんおばあちゃんの前で話をするので、気軽に話ができるんです。経営者である皆さんの前で、何を言つたらいいのか迷つて、卒業生スピーチで何を言えはいいんだらうかと、まだ卒業モードに全然なつていない思つています。また何故か卒業生スピーチの順番が僕が一番最初なんです。理事会でも何も知らないのに一番最初で、今日も凄く損をしている気分です。皆の話をどう話せばいいのかわからないので、来させていただきます。

僕が入会したのは平成26年で4年間しかJ.C.活動を行な

ていなく、皆さんに比べて短い期間で、話すことも思ひ出も皆さんに比べて少ないと思つていますが、僕的には凄く内容が濃い4年間です。僕の思ひ出話をお伝えしたいと思つています。

僕の入会のきっかけは松永で介護の仕事で15年間サラリーマンをしていました。その時に福山市役所や尾道市役所とは仕事の関係でお付き合いがございまして、平成26年に尾道に施設を公募するからチャレンジしてみたいかと話があり、公募に手を上げたら運良く受かることができ、尾道で起業することにしました。

一番最初に起業したときに介護の現場については実績があるのでも出来るかなと思つてはあつたのですが、いざ会社を立ち上げて運営しなくては行けないというときに、マネージメント等と言つた経営に於いての勉強はまったく無くて、また尾道に友達や知り合いが全くいない状態で不安の淵の中で起業しました。

そんな時に、5月10日にFacebookのMessengerに訳の分からないメッセージが来ました。「尾道の若手起業家を探して、川原さんお疲れはいつですか？」と本当に凄く怪しい人だと思つて、「何ですか？」と返信したら「決して怪しいものではないですよ」と返つて来ました。また「尾道の若手起業家でお金を投資してくれとか、僕は何か協力できません」と返したら「決して怪しいものではありません」と返つて来ました。そこで「36歳です」と回答したら「またある人から、私は尾道青年会議所に入会しているのですが、今尾道で20歳から40歳までの若手起業家や次世代のリーダー達が集いの刺激を受け合う団体です。私も38歳の起業家です。もし興味がありましたら川原さんとお話してみたいのですが、どうですか、いやいまして」とメールが入つてきました。これ宮坂先輩なんですか。

凄く悩んで何回かやり取りをし、宮坂先輩と会うことになりました。その時は今でも忘れません。池田誠先輩が「三三三」しながら最初から最後まで「大丈夫じゃけー」「大丈夫、大丈夫」って言って飯入会申込書を渡され、「取りあえず書けば大丈夫じゃけー」と言われ書いたのが今でも思い出になります。その時、尾道青年会議所という団体を知り、入会するきっかけを頂きました。

それから3年たち卒業となりまして、今考えてみると宮坂先輩、池田先輩がきっかけを作つてくれたお陰で今も会社の運営が出来ていると思つて、尾道青年会議所に入つたことで色々な仲間に出会うことができ、刺激を頂きました。今日の今でも頑張っているのかなと思つています。

平成26年にひとりでつくり推進室のJ.A.Y.C.E.拡大委員会に入らせて頂いたのが、本当に右も左も分からない中、池田先輩に「ちょくちょく来ればいい」と言われそんなもんかなと思つて乗り越えました。

平成27年に田中委員長の地域交流委員会幹事をすることになりましたが、幹事の役割を監視と勘違いをしていたり、全然仕事も分からず、ほとんど参加していませんでした。今考へると田中委員長と山本副委員長にはすごく迷惑をかけて、何も役に立てない苦しい思い出しちゃいます。しかし、その中で宮地さんや大池さんと仲良くなり、伝説の焼きそばを作

り結果が深まり、田中委員長が病気になることをきっかけに、何とか田中委員会を盛り上げようと思つたのを覚えています。でも今考えると色々な事があつて、ライングループの中から村上忠正先輩が急に抜け、何かあつたかなと思つていますが、村上先輩と連絡が取れなくなつたり色々なハプニングに見舞われながらの田中委員会の思い出です。

僕自身が今年、委員長をしてみたいと思つて、去年の秋にきつかけを頂いたのが、去年の地域教育推進委員会の大西委員長、工藤副委員長のもと、委員長をさせていただきます。僕の思い描いたJ.C.と言うのがよく分からなかつた2年目を終つて、この年、寺子屋事業とか、すべてをみんなまで体となつてやっつけていき、大西委員長が色々な所に配慮しつつ、1つの物をみんなで作つていき最後まで僕を立てて貰つた記憶しかないんですけど、そんな中でやつた事業がすごく印象に残りました。寺子屋では大西委員長が泣いたり、辻先輩がへレレケになつたりとか色々な事がある中で、1年間メンバーと楽しく過ごしたことで、卒業の年に恩返しという何かかみんに対してできることがないのかなと思つた時に声をかけて頂き、もし自分が役にたつて受かるのであれば頑張りたいです。言つたのが去年の今頃だつたと思つています。

実際、今年委員長をしてみても、僕の場合は挫折という大変なことはないです。新理事にならなれない人に是非委員長をやつた方が良いでしょう。僕は今の段階では言えないし、むしろ仲のいい人には委員長はやめた方が良いでしょう。言つたのが本音かもしれないが、これは最後の事業が終わつてからしか言えないのかな。

僕はまだ事業が残つている状況なので、今はそう言う話が皆さんに出来ないのですが、ただ1つ言えるのが、今委員長をやつている経験は今僕が会社を運営していく中で、ものすごく役に立つことなんだろうと今でも思っています。自分時間がなくて立つことを作り、自分がやりたいことを纏めてやる難しさというのには青年会議所ではないと経験できないことではないかと思つています。そういう経験をさせて頂いた青年会議所には本当に感謝し、やつて良かったと思つています。でもあと2回事業がこけてもこの気持ちでいれるか分からないですけど、宮坂先輩の卒業生スピーチと僕の話が相通することではあります。青年会議所に入つてからの規模は4倍くらい大きくなりました。これは、色々な人に出会えて、色々な知識を頂いて色々な事を吸収できたこと、今の会社も繁栄しているんじゃないかな。

うちの会社はJ.C.の活動があるって言つたら、「どうぞ、どうぞ行つて来て下さい」と。

J.C.で学んだりしていることで会社が大きくなつていて、と認識を持つてくれる従業員が多く、僕自身は本当に助かっています。最後に皆さんに言えることは、卒業生スピーチを迎えたい時に後悔がないJ.C.活動をしてほしいなと思つています。僕は本当にJ.C.に入つて色々な勉強が出来て自分自身が成長できた4年間だったと思つています。

1つ残念なのが福祉の業態から青年会議所に入つている若手がいないので、僕らの福祉の団体からも青年会議所に入れる人材を送り出せるOBになれたらと思つています。

どうもご清聴ありがとうございました。

どうもご清聴ありがとうございました。